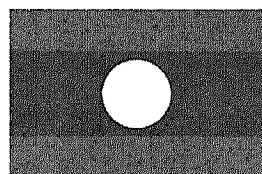


# ラオスの学校に大潜入！！



Laos

濱中 ユキ

羽村市立武蔵野小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：1時間
- 対象：小学3年生
- 対象人数：33名

## (1) 授業実践のテーマ・目的

- ・ラオスの学校生活に関心をもつ。
- ・日本との共通点や相違点を考える中で、考え方やルールは一つではないことに気づく。

## (2) 授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【ラオスの学校に大潜入！】 ・ラオスの学校生活を知り、関心をもつ。 ・日本との共通点や相違点を考える中で、考え方やルールは一つでないことに気づく。	・ラオスクイズ ・ラオスの踊りを踊る。 ・学校の様子を見て、気づいたことを話し合う。 ・アンケートから、ラオスの子どもたちの大切にしているものを知る。	・シン (ラオスの女性の衣装) ・パワーポイント ・アンケート ・ワークシート

## (3) 授業の詳細

### 【ラオスの学校に大潜入！】

#### 知る・感じる

地理・衣・食・言語についてのラオスクイズを出して子どもたちの関心が高まるようにした。ラオスの児童館では男女分け隔てなく踊っていることもあることを伝え、動画を見せた。異文化を頭で理解するのではなく、体験させ感じられるように、動画を見ながら子どもたちも一緒に踊った。【資料①②】

#### 児童の反応

ラオスの女性が着る民族衣装シンを実際に持ってきて見せたことで関心を高めることができた。

リズムダンスが大好きな子どもたちにとって、ラオスのダンスは導入として興味をもたせ、体験できる力のある教材となった。



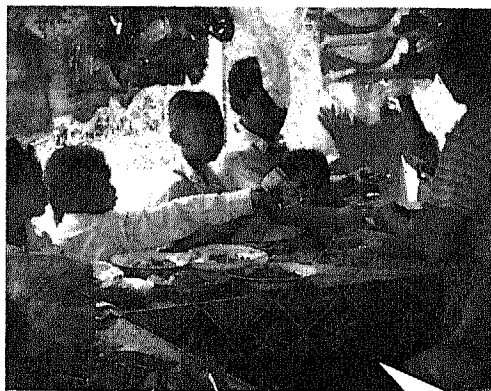
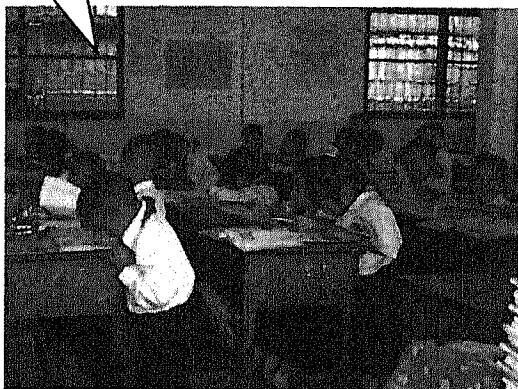
### 学校生活を比べる

子どもたちが通う学校の写真を見て、「不思議だな」「どうして」など疑問や感想、驚きがあったら自由に手を挙げて発言させた。子どもの意見はカードに書き、黒板に貼っていく。【資料③】



- ・校庭がコンクリートだ。転んだら痛そう。
- ・校庭にラインがひいてある。
- ・自然が多い。 ・遊具が少ない。
- ・ブランコやのぼり棒、サッカーゴールがない。
- ・校庭にテーブル(テラス)がある。

- ・一人一つの机じゃなくて、つながっている。
- ・とても細かい字でノートをとっている。
- ・男の子の髪型がみんな似ている。
- ・肌の色が違う。
- ・制服を着ている。中学校みたい。
- ・ピアスをしている。怒られないのかな。ぼくたちの学校ではぜったいにだめなのに。

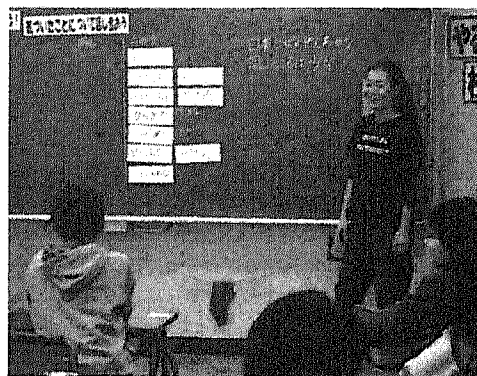


- ・休み時間におやつを食べている。
  - ・お金を使って自分たちで買い物している。
- 教師：ラオスでは朝ごはんを食べず、休み時間に朝ごはんのように麺やお菓子を食べる子もいるんだよ。
- ・ぼくたちは朝ごはんを食べるからおかしを休み時間に食べると体に良くないよ。
  - ・わたしたちと学校のルールが違うのだな。

#### 児童の反応

気づいたことを話し合った後、カードを日本と同じところと違うところに分類すると、同じところに分類するカードが一つもなくなってしまった。子どもたちは驚いたようすで、日本と全然ちがう、同じところが少ないと、発表していた。

子どもたちは自分たちが学校生活の中で当たり前だと思っていたことが国によっては異なることを感じたようだった。また、気づいたことから自分の学校やラオスがどうしてそういうルールになっているのかを子どもたちに考えさせた。



#### 大切にしているものを比べる

ラオスの児童に答えてもらった同様のアンケート【資料④】をクラスでも行った。それぞれどのようなことを大切にしているのか比較することで考え方の違いや同じ考えをもっていることに気づけるようにした。

##### 1 今、あなたはどんなものがほしいですか？

	ラオス	3年3組
1	勉強するための新しい道具 64人	ゲーム 11人
2	携帯・自転車・新しい家 17人	iPod (携帯音楽プレイヤー) 5人
3	勉強 16人	ペイブレード・本 3人

##### 2 あなたの生活の中で一番大切にしているものはなんですか？

	ラオス	3年3組
1	家族と過ごす時間 97人	家族 19人
2		ゲーム 3人
3		友だち・命・アクセサリー 2人

#### 児童の反応

学校生活を見たときの意見では同じところが少ないという意見が多かったが、アンケートを見て、家族が大切だという気持ちは同じだということに気づいた児童もいた。

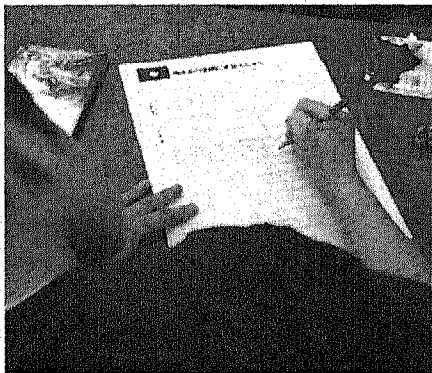
#### 児童の感想

●ラオスの子どもたちは勉強が好きなんだな一と思いました。ラオスの子は日本では考えられないこともやっていることもあるし、同じところもけっこうあるんですね。もし時間があったらラオスのことをもっと知りたいです。ラオスの子どもとも会ってみたいし、ラオスの子どもがやっていることをやってみたいです。

●ラオスの子たちはあまり幸せじゃないのかと思った。でも家族を生活の中で一番大切にしているのは同じだった。私たちはラオスはいいな一と言った

り、思っていたけど、ラオスの子どもたちにとっては日本の方がいいんじゃないのかなと思った。考えてみたら日本の子どもたちはラオスよりぜいたくをしているように思った。ラオスの国に行って、ラオスの子どもと話してみたいな〜と心で思った。

- ラオスの子どもたちはほしい物や気持ちや学校や身の回りの物も違ったけど、同じ物もあってびっくりしました。だってあんなにちがう物ばかりだったのに。でも「ラオスの子どもたちだって楽しくがんばっているんだから、わたしも今日みたいにいっぱい発言をがんばって、いっぱい考えて、ラオスの子どもたちみたいに授業を楽しんでいこう」と思いました。



#### 〔4〕授業実践を終えて

三年生の子どもたちにとって他の国の文化を学ぶ授業は初めてであった。提示した写真すべてに子どもたちは驚き、興味をもって自分たちの生活との違いを比べることができた。この授業を通して、自分の生活が当たり前だという価値観から、国によっていろいろなやり方があるのだということに気づいた子どもたちもいた。また、ラオスの学校生活を知る中で、どうして自分たちの学校のルールはそうなっているのか、自分自身を振り返って考える子どももいたのは成果であった。

しかし、「ラオスはかわいそう」と感想をもった子どもたちもいた。自分たちの身近な生活を土台にして考えて、物質的な豊かさだけを比べたからであろう。一方で、「ラオスの子どもと話してみたい。もっと知りたい。」という意見もあった。どちらかがよいのではなく、お互いの違いを認めていける授業をこれからも目指していきたい。

#### 〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『外務省ホームページ』 < <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/index.html> > 2009/12
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告集』 JICA 地球ひろば 2009

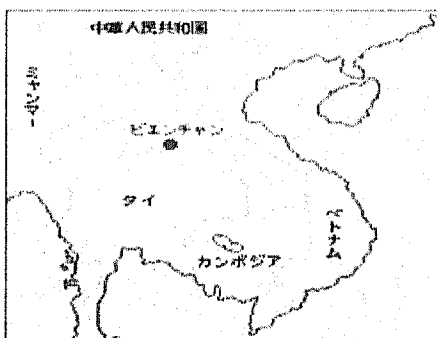
#### 〔6〕使用教材

##### 【資料①】パワーポイント（ラオスクイズ）

スライド1

第1問  
ラオスには海がある。  
○か×か

スライド2（ラオスの地図）



スライド3



第2問  
おばあさんが焼いているものは何でしょう？

スライド4（カオソーイ）



スライド5（カオニャオ）



スライド6 (子ども文化センター)



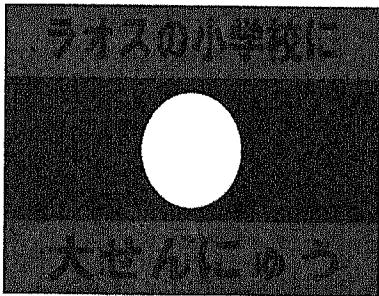
どんな遊びをしていたのでしょうか。

【資料②】 動画 (子ども文化センターでの踊り)



【資料③】 パワーポイント (ラオスの学校に大潜入)

スライド1



スライド2



スライド3



スライド4 授業風景

気になった部分を詳しく見られるように、ハイパーリンクをつけておく。



ノートに一生懸命書いているよ

みんな中学校みたいに制服だ。

みんな真剣に勉強している



スライド5 休み時間



スライド6 休み時間



【資料④】 アンケート

**ラオスの学校に大せんにゆう**

名前 \_\_\_\_\_

1 今、あなただけどんなものがほしいですか？

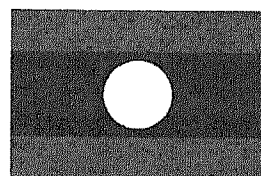
	ラオス	3年3組
1	64人	ゲーム 11人
2	17人	iPod 5人
3	16人	ハイブレード・傘 3人

2 あなたの生活の中で一番大切にしているものは何ですか？

	ラオス	3年3組
1		家族 19人
2		ゲーム 3人
3		友達・弟・アウタヤシー 2人

3 ラオスのことを知ってどんなことを考えましたか？ かんどうを書きましょう。


## 世界に窓を開こう！



Laos

松下 優子

府中市立本宿小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：3時間
- 対象：小学4年生
- 対象人数：32名

### 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・日本とは異なる外国の文化に触れ、興味・関心をもつ。
- ・ラオスと日本を比較し、相違点や共通点を知る。
- ・青年海外協力隊をはじめ、日本がラオスに行っている人的・物的支援を知る。
- ・途上国に対して自分ができることを考える。
- ・ラオス人の「幸せ」と自分自身や日本人の「幸せ」を考えることを通して、「幸せ」の普遍性に気付く。

### 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【ラオスと日本を比べよう】 ラオスと日本を比較し、相違点や共通点を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスの写真を2枚見せ、何をしているかを考えさせる。</li> <li>・ラオスと日本の相違点や共通点について、「気候」「交通」「食べ物」などの項目に分けて考えさせる。</li> <li>・気付いたことや感想を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ラオスの写真</li> <li>・現地で調達した衣類</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
2	【ラオスで活躍する日本人の姿や日本のラオスへの取り組みを知ろう】 日本がラオスに行っている人的・物的支援を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラオスで働く青年海外協力隊の活動や日本がラオスに対して援助していることを知り、自分ができる活動を考える。</li> <li>・ビデオを見せ、ラオスの地方の教育活動を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ「世界うるるん 滞在記～ラオス編～」</li> </ul>
3	【「幸せ」とは何か】 ラオス人の「幸せ」と自分自身や日本人の「幸せ」を考えることを通して、「幸せ」の普遍性に気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の「幸せ」について考える。</li> <li>・ラオスで出会った人たちから聞いた「幸せ」を知る。</li> <li>・ラオス人と日本人を比べて、「幸せ」について考えを深める。</li> </ul>	



〔3〕授業の詳細

1 時限目：【ラオスと日本を比べよう】

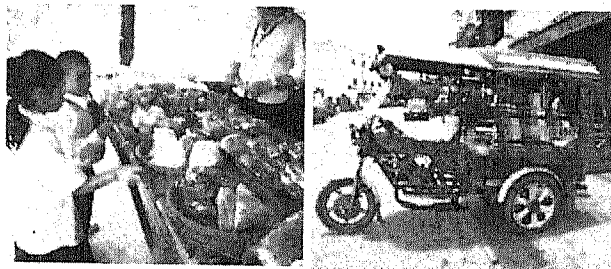
最初に、女の子2人が物を売っている写真と、小学校で歯磨きしている写真を見せ、何をしているところかを考えさせた。



働く子どもたち

小学校の歯磨きタイム

次に、ラオスの位置を確認した後、「国土の地形」「気候」「教育」「交通」「食べ物」「仕事」「家族」「性格」について日本とラオスの相違点や共通点について考えさせ、ワークシートに書かせた。



小学校のおやつタイム

トゥクトゥク



カオニャオ（もち米）

マンゴスチンやドラゴンフルーツ  
（たくさんの種類の果物が並ぶ）



仕事（2割）より家族（8割）が大切  
家族や親戚と一緒に仕事をする



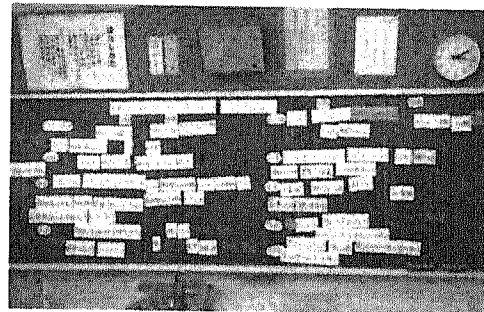
お坊さんによる托鉢

シン（女性のスカートはお洒落）



幸せ＝心が平坦であること  
いつも穏やかでニコニコしているラオス人

子どもたちは、日本のことについてしか書けないと思っていたが、2学期に入って、子どもたちにラオスのことについて、よく話していたので、ラオスのことをよく知っていた。よく発表してくれ、黒板いっぱいになった。



最後に、気付いたことや感想を出し合った。子どもたちからは、「日本の方が幸せだ」、「ラオスは日本より楽しそう」、「ラオスの人たちの方が性格が穏やかでニコニコしている」などの発表があった。

世界に目を向けよう！ラオスってどんな国？ 名前（ ）

◇地図帳でラオスを探し、ラオスに接している国を書きましょう。

◇ラオスと日本を比べよう！

	ラオス	日本		ラオス	日本
国土の地形			食べ物		
気候			仕事		
教育			家族		
交通			性格		
			その他		

◇ラオスと日本を比べて、気付いたこと、考えたこと、感想などを書きましょう。

## 2 時限目：【ラオスで活躍する日本人の姿や日本のラオスへの取り組みを知ろう】

最初に、ラオスで活動する青年海外協力隊を紹介し、何をしているところかを考えさせた。

次に、国道一号線、友好橋、ナムグムダムを紹介し、日本がラオスへ行っている人的・物的支援について考えさせた。

その後、ビデオ「世界うるるん滞在記～ラオス編～」を見せ、地方の教育がどれほど遅れているものかを実感させ、自分たちが途上国にできることを考えさせた。子どもたちからは、「実際に、行ってみたいと分からないが、自分たちは恵まれているので、物を送ってあげたい」、「一緒に遊んであげたい」、「将来、海外に行って、勉強を教えてあげたい」などの声が上がった。

## 3 時限目：【「幸せ」とは何か】

最初に、「自分たちは幸せか？なぜそう思うか？」と問いかけた。約9割の子どもが幸せだと答えた。理由として、「友達がたくさんいる」、「ゲームをもっている」、「お小遣いがもらえる」などの発表があった。

次に、1 時限目で学んだことを振り返りながら、ラオスで出会った人たちから聞いた「幸せ」について考えさせた。「仕事よりも家族が大切」、「食料自給率が高い」、「いつもニコニコしている」、など彼

らの現状を再認識させ、日本と比較した。

最後に、ラオス人と日本人とを比べて、「幸せ」についてもう一度問いかけた。やはり、ラオスは貧しくて、「幸せ」ではないと答えた子どももいたが、最初の頃の認識と比べて、物質的なものも大切だが、精神的に豊かであることもとても大切だということ意識が芽生えてきたと感じた。

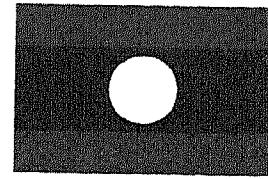
## (4) 授業実践を終えて

まず、1 時限目では、ラオスと日本の様々な比較について考えさせた。項目が多すぎて、授業時間内に終わらなかったのは今後の課題である。2 時限目では、日本のラオスへの物的・人的支援を中心に考えさせた。途上国の現状について子どもたちはあまり知らなかったが、青年海外協力隊員の活動や援助の存在などを知ると、ラオスはまだまだ貧しくて、経済的に豊かな国が支えていかなければならない現状があることを徐々に理解していった。3 時限目では、自身の幸せとラオス人の幸せについて考えさせ、ラオス人がいかに精神的な豊かさを大切にしているかを中心に授業を行った。物質的な豊かさだけが「幸せ」だと思っている子どもが中にはいたが、授業を重ねるうちに、少しずつ考えが変わり、視野が広がったことが収穫であった。子どもは、教師の影響を受けやすいため、教師自身の姿勢が、そのまま子どもの姿勢となり、教師自身の学びが一番大切だと実感した。

## (5) 参考文献(引用文献・参考資料)

- 『シャンティ 2009 夏』 若林恭英 社団法人シャンティ国際ボランティア会 2009
- 『小野先生のラオス学校だより』 小野崇 少年写真新聞社 2003
- 『地球の歩き方 ラオス』 「地球の歩き方」編集室 ダイアモンド社 2008
- 『平成 20 年度教師海外研修 授業実践報告集』 JICA 地球ひろば 2009
- 『世界うるるん滞在記～ラオス編～』 ビデオ TBS 1999

# 「No Chaos No Laos」



Laos

汐中 義樹

足立区立中島根小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：3時間
- 対象：小学5年生
- 対象人数：31名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・自分の考える「普通」は、世界に目を向けると「普通」ではないのかもしれないということに気づき、ラオスの子どもたちの生活を見聞きし、自分の生活と比較してみる。

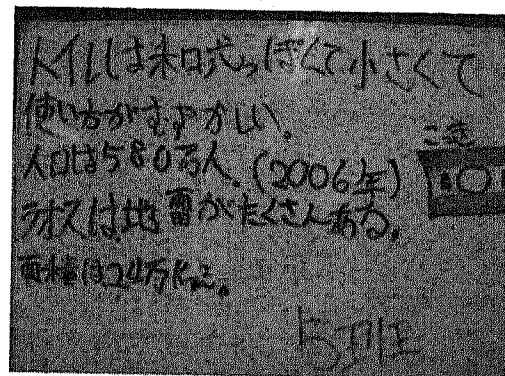
## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	【ラオスってどんな国？調べ編】 ラオスの国について知る。	・インターネットや図書館の本を使い、ラオスの国について自由に調べる。 ・同じテーマ（文化、環境、学校など）について調べている子同士でグルーピングする。	
2	【ラオスってどんな国？発表編】 前時で調べた内容についてグループごとに発表する。	・調べたことを発表用ボードに記載し、全体で発表する。	ホワイトボード
3	【ラオスの子ども、日本の子ども】 前時で調べたラオスの生活から、子どもたちの価値観を想像してみる。	・「今欲しい物は？」などのアンケート結果から、自分たちとラオスの子どもたちとを比較する。	アンケート 写真

## 〔3〕授業の詳細

### 1 時限目：【ラオスってどんな国？調べ編】

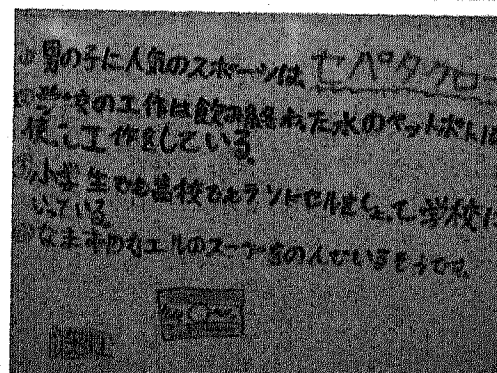
ラオスはどこにあるのか？ラオスの人々はどんな生活をしているのか？等、自分なりに気になったテーマを決定した。同じ様なテーマで調べる子同士でグループを組み、図書室とパソコン室を開放し、自由に調べさせた。



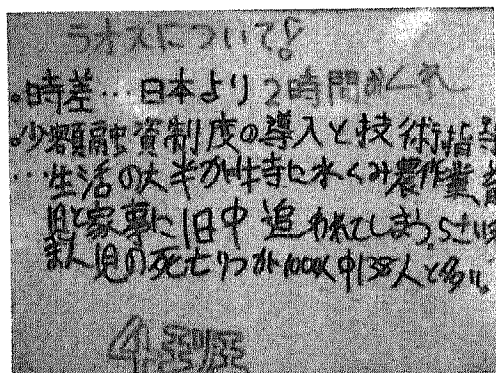
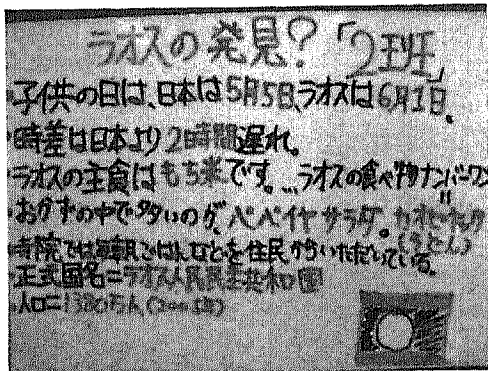
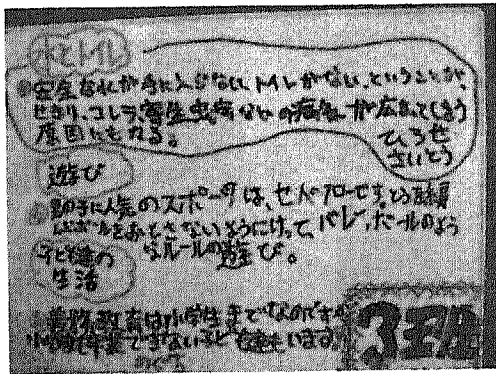
### 2 時限目：【ラオスってどんな国？発表編】

前時で調べたテーマについて調べた事をホワイトボードに記載して、グループごとに発表した。

その際、自分の中にできたイメージも一緒に発表させた。また、間違った情報についてはこちらで訂正しながら発表をさせた。







**児童の意見**

- ラオスは貧しい国であり、子ども達は学校に行く事もままならない。
- もち米を食べて生活している。農業が生活の大半を占めている。
- 小学校を卒業できない子が多い。

**3時限目：【ラオスの子ども、日本の子ども】**

2時限目までで、ラオスについて「貧しい=かわいそう」というイメージが子どもたちの中のできており、「貧しい国の人々は、夢も希望もなく、ただその日を生きていくので精一杯なのではないだろうか」といったような考えに対して、3時限目では、逆転現象を起こそうと考えた。

日本の子どもたちに事前に「欲しい物は?」「夢は?」といったアンケートをとっておいた。「欲しい物」という質問に対しては「ゲーム」や「お金」などの答えが多かった。そして、「夢」をしっかりと持つ子もいる一方で、将来の「夢」がまだ見つからない子どもも多にいる。

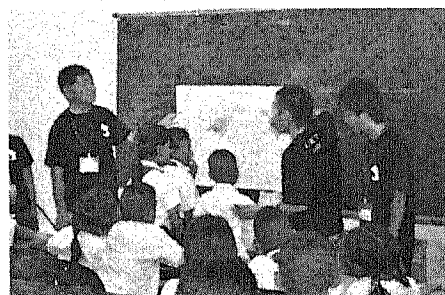
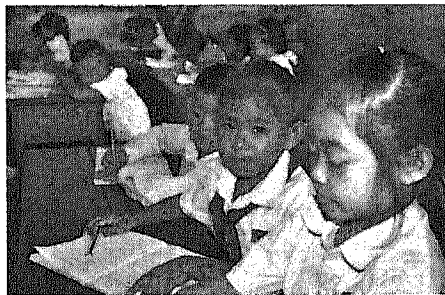
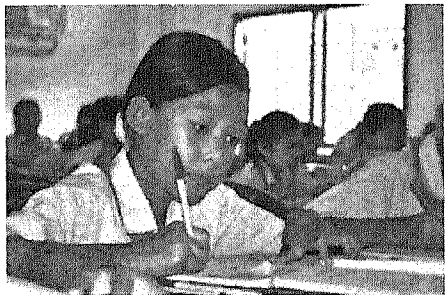
「ラオスの子は同じ質問に対してどのように答えているのか?」を考えさせた。

子どもたちからは、「食べ物・お金」といった予想が多く出てきた。その後、ラオスでとったアンケートを提示すると、子どもたちは意外な答えに驚いていた。

**【ラオスでとったアンケートの結果】**

- ラオスの子、97人に聞きました!
- ①今欲しい物は何ですか?
    - ・勉強するための道具(ノート、教科書) 64人
    - ・遊び道具 17人
    - ・義務教育以上の教育を受ける機会 16人
  - ②最近親に叱られましたか?
    - ・言うことを聞かない 37人
    - ・遊んでばかりいる 31人
    - ・勉強しない 9人
    - ・家事を手伝わない 7人
    - ・その他 13人
  - ③将来の夢は何ですか?
    - ・教師 27人
    - ・軍人 15人
    - ・ビジネスマン 8人
    - ・軍の幹部 6人
    - ・コンピュータ関係 2人
    - ・銀行員 2人
    - ・医者 17人
    - ・警察 11人
    - ・会計士 7人
    - ・議員 3人
    - ・美容師 2人
    - ・科学者 2人
  - ④一番うれしかったことは何ですか?
    - ・誕生日などの特別なプレゼント 22人
    - ・成績が良かったときに買ってもらったもの 17人
    - ・両親からの愛情 17人
    - ・両親と一緒に暮らせること 11人
    - ・良い成績が取れたこと 8人
    - ・親に優しくされたこと 7人
    - ・学校へ行けること 6人
    - ・その他 11人
  - ⑤あなたの人生で一番大切なものは何ですか?
    - ・親と一緒に住み、学校に行けること 97人(100%)

## 【ラオスの子どもたちの写真】



子どもたちは「貧しい」と聞くと、「貧しい→物が無い→不幸」といった想起をする子が多い。しかしラオスの子のアンケートを見る限り、彼らには夢もあるし、希望もある。ゲームを欲しがる日本の子と、しっかりと夢を持っているラオスの子。日本の子どもたちの中にある「貧しさ」の概念を考え直す機会にしたいと考え、以下のような話をした。

「『貧しい』と聞くと、私たち日本人はすぐに同情的になる。でもラオスの子のアンケートを見て分かれると思うけれど、彼らは決して貧しくなんかない。食べるものもあり、夢もある。あれもこれもと欲しい物がたくさんある欲張りな私たちの方が、実はもしかしたら『貧しい』部分もあるのかもしれない。

私たちが普段何気なく『普通』だと思っている事

でも、ラオスの子たちにとっては『普通』ではないこともある。逆に、ラオスの子たちが『普通』に思っている事でも、私たち日本人にとっては『普通』ではないこともある。

少しでもいい。自分達の生活の『普通』について考えてみよう。私たちの『普通』の生活の中には、『普通じゃない幸せ』が本当はいっぱいあるはず。それに気付くことができれば、それはすごく『幸せな事』なのかもしれない。

先生が家で奥さんの料理にケチつけて奥さんに怒られるのも、空手の先輩の文句を言えるのも、実は満たされた生活を過ごしているからできる事なのだろうな、と思う。

これからもみんなと一緒に、普通の生活の中にある『普通じゃない幸せ』を見つけていきたい。」

## 〔4〕授業実践を終えて

教員になって最初に思ったことが、「今の子ども達は満たされている」ということだった。彼らの不満や悩みについて考えさせられる事が多かった。

ペルーに行った際、平日の昼間から小学生くらいの子がみやげ物をもって寄ってくる。その子たちに対して僕が最初に抱いた感情が「かわいそう」だった。しかし、帰国後にペルーの自殺率がとても低いという話を聞いて驚いた。年間3万人以上が自殺によって命を絶つ日本と、自殺率をはるかに低いペルー。その現実を目の当たりにして、自分にはもっと気付かなければならない事がたくさんあると思った。

今回訪れたラオスでは、かつて抱いた感情が蘇り、日本の子どもたちに伝えたい事が明確に頭に浮かんできた。

今回の授業実践を通して、私が伝えなかったテーマを全ての子どもたちに伝えられたとは思わない。これからの彼らとの生活の中で、まだまだ気付かせるべき事がたくさんあるし、自分自身も学ぶべき事がたくさんあると思っているが、今回の研修で「ラオス」を学んだことは、子どもたちと共に、私自身にとっても普段の何気ない生活を見つめ直すいい機会になったことは間違いない。今回の経験や実践を今後も活かしていきたい。